

日本木材学会 会員 宛
(公的教育機関・試験研究機関宛)

(一社)日本ウッドデザイン協会 特別会員への参加のお願い 及び オンライン説明会のご案内

～異業種連携・公民連携による地域材利用の更なる高付加価値化・裾野の拡大に向けて～

日本ウッドデザイン協会設立準備室

日頃より「ウッドデザイン賞」の普及に向けて、ご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、「ウッドデザイン賞」は、**消費者・生活者目線で機能性・快適性・ストーリー性のある高付加価値の地域材利用を促進**するために、**2015年**に「**新・木づかい顕彰**」(林野庁補助事業)として開始されました。本年で7回目を迎える中、関係各位のご理解とご協力を頂き、**林業・木材業界に限らず、建築・家具業界等においても一定のステータスを得る**ことで、**毎年400件を超える作品にご応募頂く**など、地域材利用に関わる代表的な顕彰制度として位置付くに至っています。

また、**過去7年間で約2,800作品の応募を得て、約1,500の受賞作品を輩出**する中で、**先導的に地域材利用に取り組む企業・自治体・研究機関等とのネットワークも広が**っています。

さらに、大手企業の中には、毎年応募作品の社内選考を行ったり、地域での受賞作品の展示・セミナーを行ったり、受賞企業間での新たな協業等が進むなど、「ウッドデザイン賞」創設時から目指していた「**オープン・イノベーション**」の場としての役割も生まれつつあります(右図参照)。

他方、**地方の中小企業等**においては、体制面・資金面等で資源が限られる中で、「ウッドデザイン賞」で**培われたアイデア・ノウハウ・ネットワークを、既存事業の改善や新事業創出等に活か**せていないケースも少なくない状況にあります。

そこで、来年度の「ウッドデザイン賞」から自立的運営を図るとともに、**各地において「ウッドデザイン賞」の経験値を活かし、実際の利用を通じて、地域材の更なる高付加価値化を図ることや新事業の創出等を促進**していく主体として新たに「(一社)日本ウッドデザイン協会(以下「ウッドデザイン協会」という。)」を11月に設立することとし、12月より広く会員募集を行うこととなりました。(別添2)

ウッドデザイン協会は、**地域材を積極的に活用したいと考える多様な業種の企業・団体、デザイナー・クリエイター、研究者・教育機関などが参画するプラットフォーム**です。**業界やセクターを越えた「研究開発」「ビジネスマッチング」等の取組みを部会活動として展開し、地域材利用の高付加価値化や裾野の拡大に向けた「オープン・イノベーション」を促進**していきたいと考えております。

つきましては、ウッドデザイン協会の趣旨や活動に是非ご理解をいただき、入会をご検討いただきたくお願い致します。**公的教育機関・試験研究機関は特別会員(入会金・会費は無料)としての入会も可能**となります。地域材利用の促進に資するよう、地域の様々な課題に応じた連携・協働を進めて参ります。

まずは、ウッドデザイン協会についてご理解いただけるよう、別添のとおり、**幅広い会員募集に先立って「オンライン説明会」**(別添1)を開催いたしますので、ご参加頂きますよう、お願い致します。

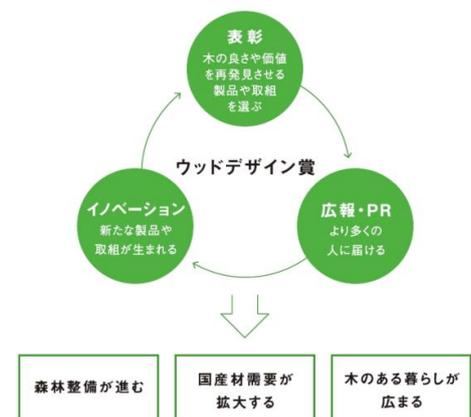
《本件に関するお問い合わせ先(E-mail 推奨)》

日本ウッドデザイン協会設立準備室(担当:高橋・木俣)

〒105-0004 東京都港区新橋2-13-6 新橋862ビル8F

TEL:090-2164-8627(木俣携帯) FAX:03-6550-8361 E-mail:kimata@wooddesign.jp

ウッドデザイン賞の目指すもの



(別添1)

**一般社団法人日本ウッドデザイン協会
オンライン説明会（公的教育機関・試験研究機関向け）**

1. **主 催** 日本ウッドデザイン協会設立準備室
2. **協 力** 林野庁 木材利用課、「ウッドデザイン賞」運営事務局
3. **日 時** **2021年11月15日（金） 11:00～12:00（1時間）**
※当日のご視聴が難しい場合も、以下でお申込み頂ければ、アーカイブ配信のアドレスをお送りします。
4. **場 所** オンライン会議システム「ZOOM」
※アドレスは、登録者に事前にご連絡させていただきます。
5. **対 象** 公的教育機関・試験研究機関 関係者様
6. **内 容** 以下の内容で実施
- (1) 開会挨拶
 - (2) 来賓挨拶 (5分)
小島 裕章（林野庁 木材利用課長）
恒次 祐子（(一社)日本木材学会 常任理事、(一社)日本ウッドデザイン協会 理事（予定））
 - (3) 概要説明①「日本ウッドデザイン協会 設立経緯・協会概要紹介」 (15分)
高橋 義則（日本ウッドデザイン協会設立準備室 事務局長）
 - (4) 話題提供 (10分)
「試験研究機関・教育機関等と連携した新たな研究開発の促進への期待（仮）」
赤池 学（ウッドデザイン賞 2021 審査委員長）
 - (5) 概要説明②「日本ウッドデザイン協会 入会方法/連携・協働事業等」 (10分)
日本ウッドデザイン協会設立準備室
 - (6) 質疑応答 (20分)
 - (7) 閉会
- ※ 終了後に希望者向けの個別相談の場を設定します。（申込時に希望をお知らせ下さい）
7. **申 込** 以下の申込フォームからお申込み頂くか、E-mail で以下の必要事項をお申し付け下さい。

《申込フォーム》 [コチラ](#) (Google フォーム)

《必要事項》 《担当者》

①氏名、②組織名、③部署・役職名、④電話番号、⑤FAX、⑥E-Mail

《参加者一覧》

⑦参加者名、組織・部署・役職名

《その他》

⑧質問事項（当日、回答させていただきます）

⑨ご意見・ご要望等ございましたら、何なりとお申し付け下さい。

（終了後の個別相談をご希望の場合も、こちらにご記入ください）

8. **その他**
- ・12月8日(水)に開催される「エコプロ 2021」（於：東京ビックサイト）において実施する「ウッドデザイン賞 2021」表彰式と一体となって、設立記念発表を行います。（会長、農林水産省代表者等も参加した記念撮影等も実施予定）
 - ・設立記念発表への参加希望の場合は、11月中旬に「仮入会申込書」をお送りください。（12月上旬開催の「設立総会」開催後に「入会申込書」をお送りいただきます。）

日本ウッドデザイン協会のご案内

2021年10月
日本ウッドデザイン協会設立準備室

※本資料に記載の内容は、準備段階につき変更の可能性がございます。

木の良さや価値を再発見し、豊かで快適な暮らしをもたらす、森林や環境を守り、地域や林業をはじめとした産業を活性化していく取組を、デザインの力で実現していく。私たちはそれを「ウッドデザイン」と呼んでいます。

「ウッドデザイン賞」はこうした目線を持つ優れた建築や製品、取組を消費者目線で評価し、表彰する顕彰制度です。林野庁の補助事業として2015年から始まり2021年で第7回目を迎え、過去6年間で応募数約2800点、受賞数1500点の実績があります。

ウッドデザインというプラットフォームを広げ、顕彰制度を引き継ぎながら、その活動をさらに広げて、SDGs・カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現、グリーン成長や地域活性化戦略など、公共性の高い活動と市場の活性化を目指す、新たな法人を設立します。

新法人「日本ウッドデザイン協会」は、木を積極的に活用したいと考える企業や団体、自治体、デザイナー・クリエイターなど、業界横断型の木を軸にしたプラットフォームです。

木材利用を通じて、持続可能な社会の実現に向けた新たな法人の活動に是非、ご参加いただき、新たな価値創造へむけて協働させていただきたいと考えております。

2021年10月
日本ウッドデザイン協会設立準備室



設立の目的

我が国においては、戦後造成した人工林が本格的な利用期を迎えており、適正な森林整備を進めていくためには、木材の積極的な利用を促進していくことが重要です。

この法人は、木を活用した社会課題の解決をめざす取り組みを「ウッドデザイン」と定義し、「ウッドデザイン」に関わるあらゆる分野において、調査、研究、開発、事業創造、普及及び啓発する機関として、会員相互の連携並びにあらゆるステークホルダーとの対話及び協力により、木のある豊かな暮らし、木材利用、森林・林業の成長産業化及び地方創生を推進して、脱炭素化等環境と資源に配慮した持続可能な社会の実現を図り、もって広く社会に貢献することを目的とする。



名称（予定）

日本ウッドデザイン協会

Japan Wood Design Association
(略称：JWDA)

※一般社団法人を予定

設立（予定）

2021年11月以降

会長・設立準備企業（予定）

隈 研吾（会長予定）

農林中央金庫

三菱地所

竹中工務店

住友林業

ユニバーサルデザイン総合研究所

設立準備室所在地

東京都港区新橋2-13-6

新橋862ビル8階

ユニバーサルデザイン総合研究所内

事業内容（予定）

- (1) 木を活かした新たなライフスタイル又は社会的価値を創造する事例を募集し、評価及び発信をする顕彰事業。
- (2) 木を活かした豊かで快適な暮らしを創造するデザインの向上を促す調査、研究、開発及びビジネスマッチング事業。
- (3) 木を活かした社会構造への転換を促す調査、研究、開発及びビジネスマッチング事業。
- (4) 木を活かした環境評価手法の構築を促す調査、研究、開発及びビジネスマッチング事業。
- (5) 木を活かした新事業の創出を促す調査、研究、開発及びビジネスマッチング事業。
- (6) 木を活かした各種の研究成果、優良事例及びビジネスモデル等を普及発展させるための広報及び啓発事業。
- (7) 官公庁又は公的機関等に対し、木の活用又は地球環境の保全のために提言し、若しくは協力を依頼する事業。
- (8) その他この法人の目的を達成するために必要な事業。



JAPAN WOOD DESIGN
AWARD

ウッドデザイン賞は、木の良さや価値を再発見させる製品や取組を消費者目線、生活者視点で評価し、優れたものを表彰する顕彰制度です。これによって“木のある豊かな暮らし”が普及・発展し、日々の生活や社会が彩られ、木材利用が進み、森林・環境保全や地域の活性化に寄与することを目的としています。

受賞を通じて先進的な取組約1500点を集積



- 6年間の開催で約2800の作品の応募、約1,500の受賞作品の実績。
(2020年度：受賞191点、応募432点)
- 異業種の連名応募を促進、需要側の建築・設計・デザイナー、施主等の協働を推奨。
- 活動や仕組み・制度などのコミュニケーション、木材加工や構法などの技術研究の分野を広く開拓、先進的な事例が蓄積。

受賞作品の広報や発信を通じて地域の連携や活性化へ寄与



- 受賞作品には地域での良質な取組も多く、地域独自の資源を活かした優良事例が集積。受賞広報を通じて、木材や森林を活用した地域の新たな取組、ビジネスモデルの発掘と広報に寄与。
- 販売の工夫やPR手法、ユーザー認知向上のための工夫なども評価、地域での横展開可能な多彩なアイデアを紹介。

広報PRを通じたメディアや受賞者とのネットワークを構築



- 国内最大の環境展「エコプロ」での表彰、展示、セミナーの実績。
- PRを通じ、各メディアとのネットワークを構築。
- 作品集や開発ストーリーなどの取材・執筆からプロセスや開発背景までを紹介。
- 地域での展示会、セミナーなどを通じ、地域の観光や物販、飲食、広告業界との接点を構築。

各界の第一線のデザイナー・クリエイター・専門家が支援

審査委員長 赤池 学



コミュニケーション分野



山崎 亮



伊香賀 俊治

建築・空間・建材・部材分野



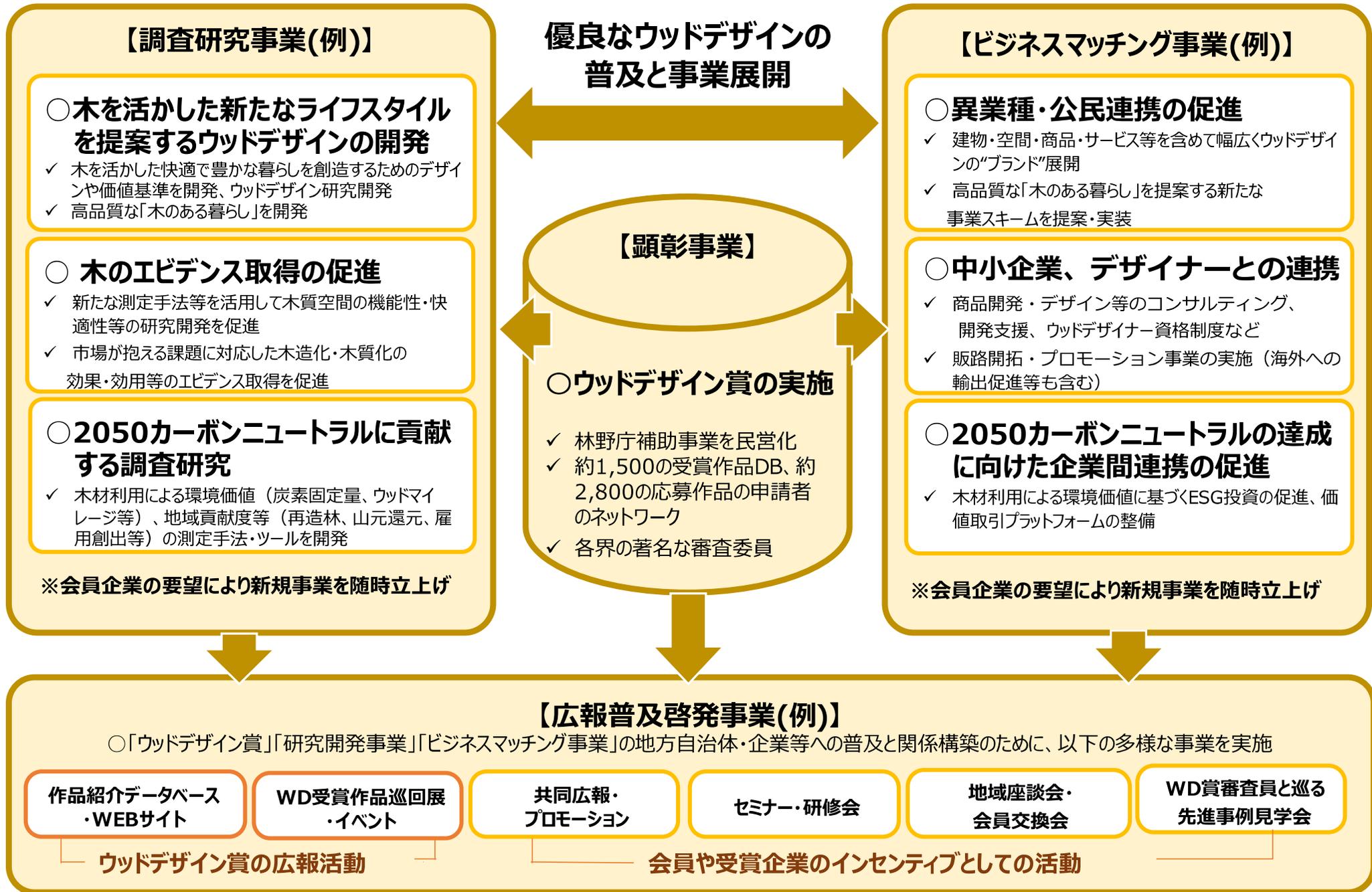
隈 研 吾

木製品分野



益田 文和

- 建築家の隈研吾氏、地方創生デザイナーの山崎亮氏、居住環境研究の伊香賀俊治氏など国内外の第一線で活躍するプロをネットワーク。
- 審査委員を始め大学や研究機関の学生や若手研究者、設計やデザインの若手などの紹介、連携も可能。
- 審査員による、セミナーや講演等を通じ、幅広い層やメディアへ訴求、集客力や発信力が高い。



※各事業の実施に際しては、関係省庁等補助事業の活用等も検討

部会の設置

会員同士がテーマに沿って、交流、意見・情報交換、協働作業を行う部会があります。
 主に4つの部会（ウッドデザイン賞、ビジネスマッチング、調査研究、広報普及啓発）を想定しています。
部会の活動・成果が新たな事業を創出することを期待しています。

- ・会員企業は、複数の部会に部員を出し、活動に参加することができます。
- ・部会は、会員がやりたいことを持ち込み、自主的に活動する場です。
- ・新たな部会や部会の中に分科会を立ち上げて活動することもできます。

【調査研究部会】（R&D）

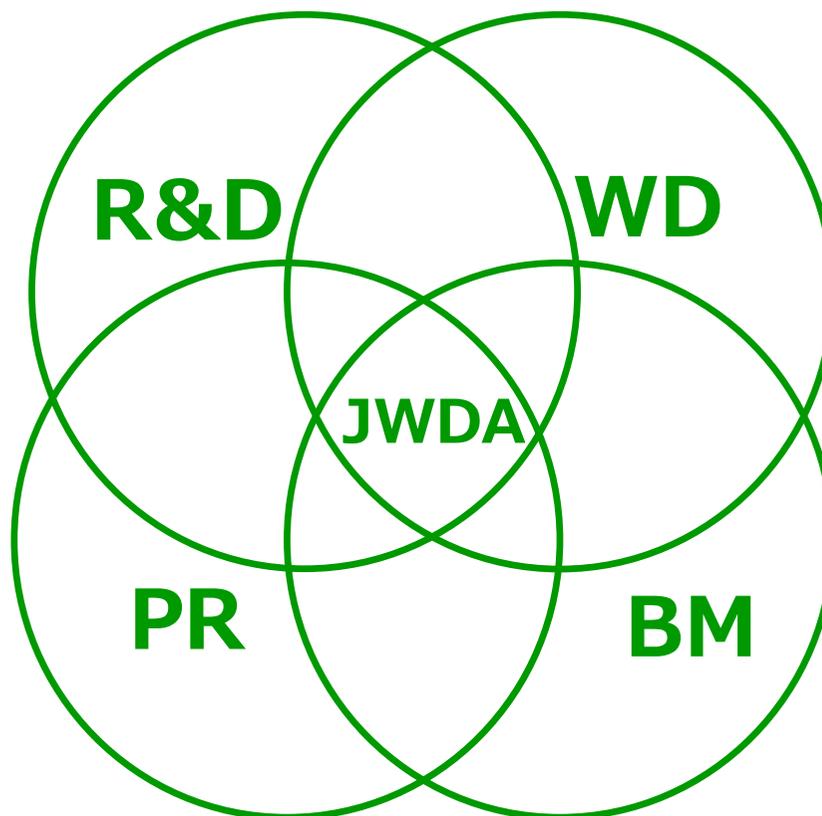
（活動案）

- 木のある暮らしの向上
- ウッドデザインのマーケティング
- 木のエビデンス取得
- 環境評価の見える化
- ツール・デバイス開発支援
- 調査研究受託
- カーボンニュートラル
- 分野別の分科会

【広報普及啓発部会】（PR）

（活動案）

- WD賞の広報活動
 - セミナー・講習会
 - 地域座談会・会員交流会
 - 審査員との先進事例見学会
 - 木育
 - 媒体別の分科会
- （WEB、イベント、セミナー、木育）



【ウッドデザイン賞部会】（WD）

（活動案）

- WD賞受賞者・応募者のネットワーク
- WD賞の拡充・高度化
- WD賞受賞作品見学会
- デザイナーの情報交換・相互研鑽の場
- デザインクオリティの向上
- デザイン経営の推進
- 分野別の分科会

【ビジネスマッチング部会】（BM）

（活動案）

- 異業種・公民連携の促進
- 中小企業・デザイナーとの連携
- カーボンニュートラルに向けた連携
- 国産材データベースの作成
- 木活のプラットフォーム
- 業界別の分科会

1 木でつながる協会

- ✓ 今までにない「業界横断型」の団体
- ✓ 川上・川中・川下が互いに応援しあう団体
- ✓ 木を積極的に活用したい会員同士がつながれる団体
 - ・木を扱えるデザイナー・クリエイター
 - ・地方の製材所・加工業者・建設業者
 - ・多様な業界の企業・事業主・ビジネスパートナー
 - ・自治体や公的教育研究機関

2 木でやりたいことをやる協会

- ✓ 会員がやりたいことを部会として活動できる団体
- ✓ ウッドデザイン賞を核として活動する団体
- ✓ 木に関する研究開発を促進する団体
- ✓ SDGs・カーボンニュートラルの実現に貢献する団体

3 木のある未来をつくる協会

- ✓ 優良なウッドデザインで木のある暮らしの向上に貢献する団体
- ✓ 木材利用を促進する団体
- ✓ 持続可能な社会（森林）の実現に貢献する団体



1. 部会の設置と参加

- 会員参加のメリットを活かすことを目的に、希望する部会の設置提案や参加ができます。
- 幅広い業種、分野、地域の会員と活動を共にすることで、有効な情報収集、共通する課題解決のための連携が期待されます。
- 森林に関わる生産者から木に関わる消費者に近い企業までが共通のテーマで連携することにより、社会への有効な情報発信や中央省庁への提案、情報収集、情報交換ができます。

2. ウッドデザイン賞に関する情報収集や相談

- ウッドデザイン賞に関する各種情報が得られ、応募に関する相談が受けられます。
- ウッドデザイン賞の審査、受賞作に関する過去の傾向を分析した結果や、日本ウッドデザイン協会としての優良なウッドデザインに関する研究結果についての情報が得られます。

3. データベースへの掲載と利用

- ビジネスパートナーとの連携を目的に、ウッドデザインに関わる情報を網羅するデータベースを利用できます。
- データベースに会員の情報を掲載することにより、新しいビジネスパートナーとの連携や営業機会の取得に役立たせることができます。
- データベースに必要な情報の追加、見直しなど、会員としての意見を提案できます。

4. ウッドデザイン賞「受賞マーク」を会員価格で利用可能

- ウッドデザイン賞の受賞者のみが利用できる「受賞マーク」を会員価格でご利用いただけます。

5. 日本ウッドデザイン協会の「会員マーク」の使用

- 日本ウッドデザイン協会の「会員マーク」は会員だけが使用できます。
- S D G s や E S G 経営を目指す会員が、森林から木材利用まで幅広い業種、分野、地域と連携して活動していることを発信する手段として会員マークが利用でき、ブランド価値の向上に役立ちます。



JAPAN WOOD DESIGN

企業のブランド力向上

- ▶ 森林、木材利用を通じた、SDGsや脱プラへの取組を牽引する企業ブランドを構築できます。
- ▶ 地域との連携、支援を通じ、地域を大切にする企業のブランド構築につながります。
- ▶ 新時代の木づかいを先導的に拓く企業のブランド構築につながります。

多様なノウハウとスキルを身につけた人材の育成

▶ 協会組織の企画や運営への関わりを通じ、ウッドデザイン賞を始めとする事業等の企画、運営、広報・PRなどのトータルなプロジェクトを体験、多様なノウハウの習得や人材の育成につながります。

オープンイノベーションの推進

- ▶ 新たな社会課題解決に向けた事業創出に向けたオープン・イノベーションの場を主導的に設定できます。
- ▶ 行政や地方中小企業の会員との接点づくりを設けることで、販路開拓・事業提携先開拓が可能です。
- ▶ 「森林環境譲与税」活用に対する異業種連携・公民連携を企画化、具体化できます。
- ▶ 公民連携での公共建築物の木材利用に関わるサウンディング・公募情報の共有が可能です。
- ▶ 受賞者をはじめとする、先駆的な取組みを実践する企業・地域や専門分野の事業者等との連携で新領域のビジネス開拓ができます。

日本ウッドデザイン協会の4つの事業・活動と視座
 ・顕彰事業：木を活かした良質な事例の発掘と評価
 ・研究開発事業：木を活かした社会・環境・経済への貢献
 ・ビジネスマッチング事業：木を活かした地域や経済の発展
 ・普及・啓発活動：多様な参画と連携を支援、促進

アフター・コロナ時代の対応

- ▶ アフターコロナ時代のサステナブル経営に貢献する「新たな組織」の形成に参画できます。
- ▶ 新しい働き方や商習慣・業務態勢による「ニューノーマル」（新常态）「地域主導モデル」の先駆例としてマーケットへのアピールが可能です。

人脈・ネットワーキングの拡大

- ▶ 組織運営を通じて、異業種、異分野や地域を含む人脈拡大、新たな事業展開のきっかけづくりにつながります。
- ▶ ウッドデザイン賞の対象である、建材・部材から建築・空間、家具・雑貨、コミュニケーション・研究等の多様な事業主体と主導的なネットワーク形成（地方自治体を含む）が可能です。
- ▶ ウッドデザイン賞審査委員をはじめとする超一流のデザイナー、クリエイターとの接点構築が可能です。

リクルーティングに有効

- ▶ 社会課題を解決する意欲も持つ企業への学生の関心の高まりから、意識の高い学生の獲得、リクルーティングに有利です。
- ▶ 森林・木材活用の視点から、競合他社との差別化ができ、幅広いステークホルダーへの配慮がある企業として認知されます。

中央省庁等との情報交換を実現

- ▶ 林野庁はじめ、業界横断型の組織体として、関係省庁と定期的に情報交換が可能です。
- ▶ 他団体等の研究会・委員会等に協会として参加し意見を反映できます。
- ▶ 各種の法規制、制度改正の内容や対応策など最新情報を入手できます。



アプローチによる木の快適性・機能性など効能（性
える化と活用
邸材や構法等の開発・活用による快適性・合理性を備え
建築・木質空間の創出

●オンラインによる見学・体験など
新たな日常にもマッチした木育の推進

●オフィスでの木材利用の推進
による人にやさしい職場づくり

●社会的背景やストーリー
を重視する消費者層のニーズ
に合わせた、機能性の高い
木質空間創出・木製品
の開発

ウッドデザイン賞で得た好事例を
データベースとして活用・発信

●国産材利用と森林
保全による水源涵養、
豊かな水資源の維持

●森林の手入れが
進むことによる山地
災害の防止

●持続的な森林経営に
よる炭素貯蔵

●脱プラ、上流域での持続可能な森林
経営による「森は海の恋人」の推進

●木材利用の新たな展開による
継続的・発展的な国産材利用と
森林保全

●木材のカスケード利用、バイオマス利用によるクリーン
エネルギー化

●企業、消費者双方に対する 合法伐採木材の
利用促進につながる各種情報の発信

●優れたウッドデザインの公共建築
物・商品開発等の推進による温暖化
防止
●木材利用、木質化による二酸化
炭素固定の促進

●「木を使うこと」の本質を理
解し、木材利用の価値を伝える
業種を超えた連携モデルの
構築

2022～
異業種交流・マッチング支援

●地域の森林資源活用で
地域を豊かにし、雇用を生
み出すビジネスモデルの構築

●地域の森林資源を活用した
地域独自の産業創出、製品
開発、マテリアル利用などの技
術革新の推進

●循環する森林資源の活用による
持続可能な地域づくり、街づくり、コ
ミュニティづくり

●地域の事業者、生活者と日本ウッドデザイン協
会の人的リソースの連携・協業の促進

2024～
商品・商流開発支援 調査・研究受託

ウィズコロナ・アフターコロナ時代の
木と寄り添う「ニューノーマル」ライフ
スタイルが実現する社会

木質化による、環境と資源に配慮
した木造建築や木製品の市場が
拡大する社会

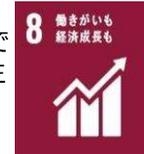
デザイン＝「社会課題の発見と
解決のための行為」ととらえ
木材利用による社会課題の解決
＝ウッドデザイン
を通じて「持続可能な社会の実
現」を目指します



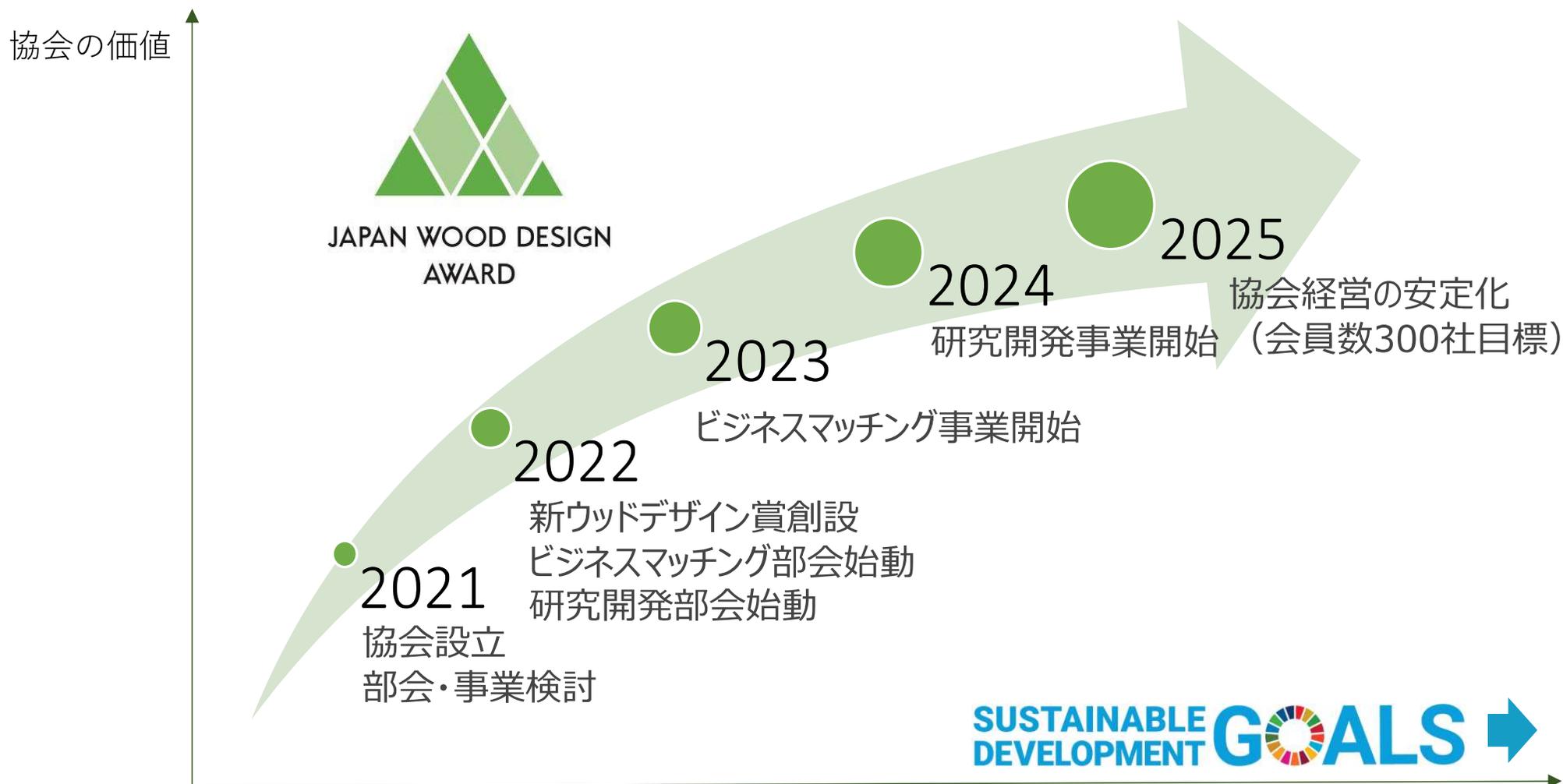
2030
SDGs達成目標年

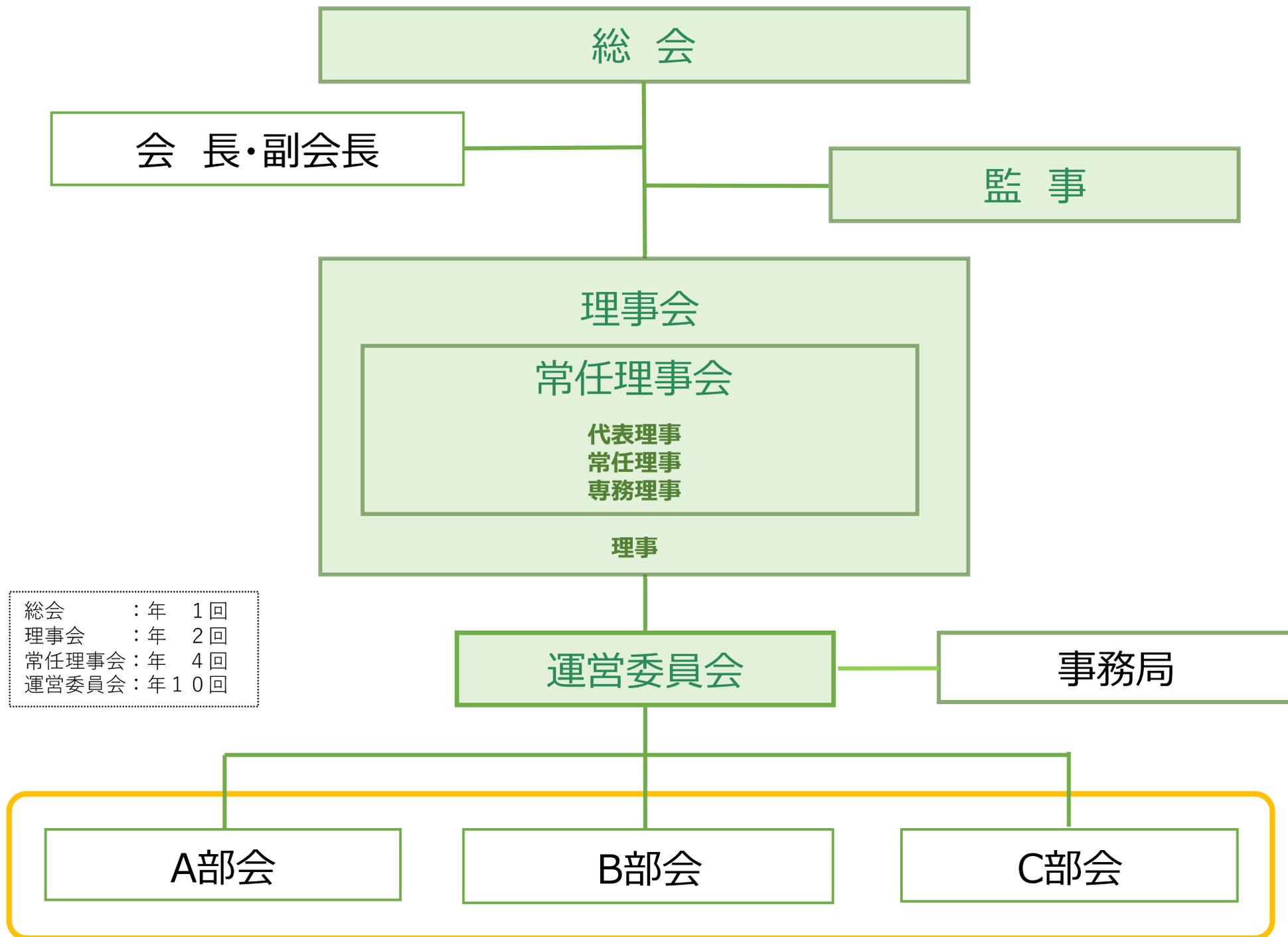
国内はもとより、地球全体での
持続可能な森林経営を通じた国土の保全、
水資源や生物多様性が維持される社会

森林・環境保全や森林・林業・木材
産業の活性化によって地方が活性化・
自立した社会



木のある豊かな暮らしの実現 木材利用の促進 持続可能な社会の実現





総会 : 年 1回
理事会 : 年 2回
常任理事会 : 年 4回
運営委員会 : 年 10回

種別		要件	年会費	議決権
社員会員	I	資本金3億円以上の企業	100万円	議決権有
	II	資本金3億円未満の企業	40万円	
	III	団体	個別相談	
会員	A	資本金10億円以上の企業	50万円	議決権無
	B	資本金3億円以上10億円未満の企業	30万円	
	C	資本金5,000万円以上3億円未満	20万円	
	D	資本金1,000万円以上5,000万円未満の企業	10万円	
	E	資本金1,000万円未満の企業	5万円	
	F	団体	個別相談	
特別会員	イ	都道府県	無料 ※役務のご提供	議決権無
	ロ	市町村		
	ハ	公益性のある団体（推薦による）		
	ニ	公益性のある教育機関・研究機関（同上）		

※入会金は無料です。

※年会費期間：4月から翌年3月まで。年度途中でご入会の場合は、月割りとなります。

※個人会員はございません。法人でのご入会をご検討ください。

※1法人1会員となります。連結子会社については、親会社が会員の場合、会費は会員区分に応じて半額となります。

※新規入会には、本協会会員からの推薦状が必要となります。

